



2012年3月16日

各 位

会 社 名 ニッポン高度紙工業株式会社
代 表 者 名 代表取締役社長 鎮西 正一郎
(J A S D A Q ・ コ ー ド 3 8 9 1)
問 合 せ 先 執行役員経営企画室長 溝淵 泰司
TEL 088 (894) 2321

業績予想の修正および特別損失の計上に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成23年10月31日に公表いたしました業績予想を、下記のとおり修正いたします。また、あわせて減損損失による特別損失の計上についてお知らせいたします。

記

1.業績予想の修正について

平成24年3月期通期連結業績予想数値の修正（平成23年4月1日～平成24年3月31日）

	売 上 高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想（A）	12,870	770	720	430	39.97
今回修正予想（B）	12,200	620	610	270	25.10
増減額（B－A）	△670	△150	△110	△160	
増減率（%）	△5.2	△19.5	△15.3	△37.2	
（ご参考）前期実績 （平成23年3月期）	14,687	2,256	2,291	1,399	130.08

修正の理由

欧州の債務危機による世界経済の停滞や、タイの洪水被害による影響、在庫調整、円高により、当社グループの関連市場であるエレクトロニクス業界を取り巻く経済環境は予断を許さない状況が続いています。一方、自動車関連企業では高いレベルの生産が続くなど一部の業種においては明るさも見られるようになりました。

これらの状況のもと、当社の主力であるセパレータ事業においては、在庫調整が進み受注は底を打ち回復基調にありますものの、パソコンや薄型テレビといった民生機器向け低圧用セパレータや新エネルギー・産業機器インバータ向け中高圧用セパレータの受注回復が見込みより弱く、当期の業績は前回発表の予想を下回る見込みとなりました。

さらに、回路基板事業の固定資産の減損処理、ならびに、税制改正による繰延税金資産および負債の取り崩しが生じたため、当期純利益が当初予想を下回る見込みとなりました。

2.減損損失による特別損失の計上について

当社の回路基板事業は、新製品の開発ならびに受注活動など再構築を進めているものの新規の受注には結びついておらず、また従来品についても価格競争による受注減少が続いており、資産の収益性が低下しているため「固定資産の減損に係る会計基準」にもとづき、固定資産の減損処理をおこない、平成24年3月期において、58百万円の減損損失を特別損失に計上いたします。

3.配当予想について

配当予想につきましては、平成23年10月31日に発表した内容から変更ありません。

（注）上記の予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報にもとづき作成したものであり、実際の業績は、今後さまざまな要因によって予想数値と異なる場合があります。

以 上